

学 校 教 育 目 標	知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童の育成
目 指 す 学 校 像	児童に、保護者に、地域に信頼される中尾小学校 ～笑顔のたえない中尾小の子・子どもに慕われる中尾小の教師～
重 点 目 標	1 中尾小読解力の定着を目指し、学びの自律・自立化と個別最適化に向けた指導法の工夫・改善 2 児童一人ひとりの心に寄り添い、明日への希望につなげる教育相談体制の充実 3 「地域で育む中尾っ子」コミュニティ・スクールの充実と SSN との一体的な推進 4 児童が安全に学び、安心して生活することができる教育環境の整備 5 職員一人ひとりが自らの力を高め、健康的に職務に専念できる職場環境の実現

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
学びの質の向上に関する取組	1	○中尾小スタンダードによる基礎学力の定着読解力の向上	①昨年度までの学校課題研究の成果をもとに、国語・算数・体育科に絞って、中尾小読解力の向上を目指す。 ②スクールダッシュボードを活用し、自己評価力、自ら課題をもつ力を養うことができるようにする。 ③中尾小スタンダードを生かしながら学校で共通の取組を行い、指導方法を工夫・改善する。	①調査結果の分析結果等を踏まえ、授業改善の視点や手立てを設定することができたか。 ②児童が自らの採点や振り返りを基に、学習状況を掴み目標を立て、自らの課題に向けて行動できたか。 ③指導方法の工夫・改善によって、市の学習状況調査（1月予定）の結果を前年度より向上させることができたか。					
		○個別最適、学びの自立に向けた ICT 機器の活用	①タブレットタイムを設け全学級で ICT 機器を活用する場面を増やす。 ②ドリルパーク等、児童が自ら取り組むことができる学習機会を増加させる。	①児童の端末活用状況の活用率が前年や年度当初を上回ったか。 ②ICT 機器の自立学習や個別学習の機能を児童が活用できたか。					
心身の発達やサポートに関する取組	2	（現状） ○学校自己評価アンケートの学校生活への意欲について、児童の 96%が肯定的評価。生徒指導・教育相談に関する項目でも児童の 94%、保護者の 91%が肯定的に評価している。（課題） ○生徒指導・教育相談の充実についての保護者の肯定評価は高かったが、児童の評価はそれに比べて低く、児童への支援について引き続き丁寧な対応を継続していく。 ○教室に入ることができない、居られない児童への対応をはじめ、発達や心のサポートについて、学校と家庭が連携して進める必要がある。	○児童一人ひとりへの細やかな教育支援や教育相談に向けた校内体制の充実	①スクールダッシュボード、心と生活のアンケート、相談ポスト等で児童の悩みを早期に捉え、校内委員会やケース会議等で組織的に対応する。 ②教育相談日や個人面談週間を設定して、保護者が学校や担任に相談しやすい体制を整える	①「困ったことがあったら先生に相談できる」の児童評価で 85%以上の肯定的評価を得ることができたか ②教育相談日や個人面談が活用され、SC や SSW と連携しながら、迅速・組織的対応を行うことができたか。				
		○多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育・教育相談体制の充実	①教室に入ることができない、居られない児童の居場所「Sola るーむ」を活用した個別支援体制を確立する。 ②特別支援教育コーディネーター、SC、SSW 等との相談体制を確立し、行政との連携を確実に行う。	①「Sola るーむ」を関係児童の学習スペースとして活用できたか。 ②個々の事案に応じ、特別支援教育コーディネーター、SC、SSW 等を活用しながら、適切な支援機関と連携することができたか。					
学校生活に関わる取組	3	（現状） ○学校自己評価アンケートの情報公開に関する項目では保護者の 96%、地域連携に関する項目では保護者の 94%が肯定的に評価している。 ○学校運営協議会で6年生の児童の意見を伝えたことで、児童との繋がりが深まった。（課題） ○SSNとの連携を図りながら更に児童と地域の繋がりを深めていくことが課題である。 ○問題行動については、学校だけでなく家庭、地域が連携して課題解決に当たる必要がある。	○地域と家庭、学校に児童を加えて課題解決を目指す学校運営協議会の実施	①学校運営協議会に教職員や児童の積極的な会への参画を進め、熟議の結果を学校運営の改善に生かす。 ②SSN 参加者や地域の方に授業や学校行事の公開を進め、中尾小の教育に対する意識の共有化を進める。	①児童を含めた学校運営協議会の熟議の結果を受けた、情報発信や提案をすることができたか。 ②地域との関わりに関する学校評価アンケートにおいて、肯定的回答が 90%を上回ることができたか。				
		○OSSNとの連携による地域の一員としての児童の育成	①昔遊び広場等、児童と地域との交流や、地域人材を生かした体験学習の充実を図る。	①SSN等と連携し、児童と地域の方がふれあい、協働する活動を2つ以上実施できたか。					
教育環境の整備に関する取組	4	（現状） ○施設・設備の瑕疵による事故は0件、児童の怪我による救急搬送は2件であった。 ○GIGA スクール関連、タブレットの活用のための備品、教材購入は概ね完了している。（課題） ○開校47年目を迎え、施設・設備の老朽化が進んでおり、計画的な修繕が必要になっている。 ○年度末のタブレット関連機器の更新に向けた準備を進める必要がある。	○安全・安心な学校生活のための教育環境の整備	①毎月10日の安全点検を活用し、要修繕箇所の迅速な修繕を進める。 ②児童の安全確保の観点から、地域やPTA 等の協力を得ながら環境整備、美化活動を推進する。	①学校評価アンケートの施設設備に関する項目で、90%以上の肯定的評価を得ることができたか。 ②地域や PTA 等の協力による環境整備、美化活動を2つ以上実施することができたか。				
		○充実した学習活動を進めるための備品・教材等の整備	①学習に必要な備品の購入や修繕を年度当初に把握し、学校予算内で計画的に整備を進める。	①年度当初の予算会議で検討された備品等の購入計画が、計画通りに執行できたか。					
教職員のキャリア形成に関する取組	5	（現状） ○秋の読解力向上の研究発表会を目標に、授業実践を通して3年間の研究成果をまとめている。 ○ミドルリーダーを中心に、若手教員に向けた公開授業が実施されている。（課題） ○キャリア段階に応じた、指導力と資質の向上が求められる。 ○タイムマネジメントを意識した業務改善と職員の健康・安全を確保する。	○学校課題研究を通じたキャリアに応じた指導力の向上	①学校課題研究の成果を教員間で共有し、自身の授業の中で活用する。 ②対話に基づく受講奨励を行い、一人ひとりの教員がキャリア段階に応じた研修への自主的な参加を促す。	①3年間の研究成果を活かした授業を日常的に実践できるようになったか。 ②キャリア振り返りシートから、教員が自己に必要な研修を選択し、自らの成長を意識することができたか。				
		○働き方を意識した効率化による業務改善	①クラウドによるデータ共有で教材作成や文書作成業務をスリム化する。 ②タイムマネジメントと健康管理への意識を高め、個々の職員の在校時間を短縮する。	①学校評価アンケートの働き方改革の項目で、教員の肯定的評価が60%以上になったか。 ②職員健康診断、職員ストレスチェックの結果から、心身の状態を健康に保つことができたか。					

